

## 第 5 部

# 現狀分析



# 第1章 子どもと子育てを取り巻く環境

## 1. 少子化の進行

平成14(2002)年の全国の出生数は、前年をやや下回り、昭和49(1974)年以降の減少が、依然として続いています。

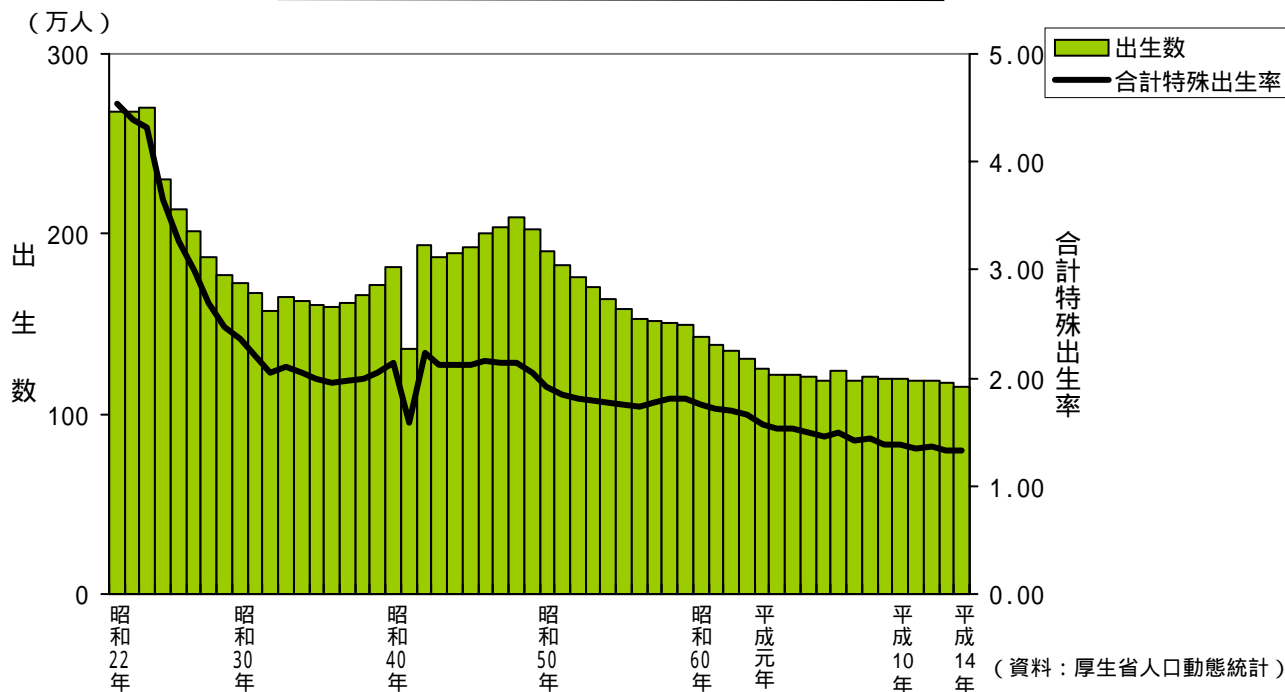
また、女性が一生の間に生む子どもの数を示す合計特殊出生率も、昭和50(1975)年に2.08人を下回って以来、平成6(1994)年は1.50人と前年(1.46人)に比べてやや増加したものの、その後、徐々に低下し、平成15(2003)年には1.29人となっています。現在の人口を維持するために必要とされる人口置換水準の2.08人には及ばず、少子化の傾向が著しく進んでいます。

神奈川県合計特殊出生率も、平成14(2002)年度で1.24人と減少傾向が続いています。

鎌倉市における平成15(2003)年の出生数は、1,152人で、平成13(2001)年には1,048人とやや減少したものの、ここ数年間の出生数は、ほぼ横ばい状況です。

また、鎌倉市の合計特殊出生率は、平成14(2002)年現在で1.01人であり、県(1.22人)、国(1.32人)のいずれをも下回っています。

図1 出生数と合計特殊出生率の推移(国)



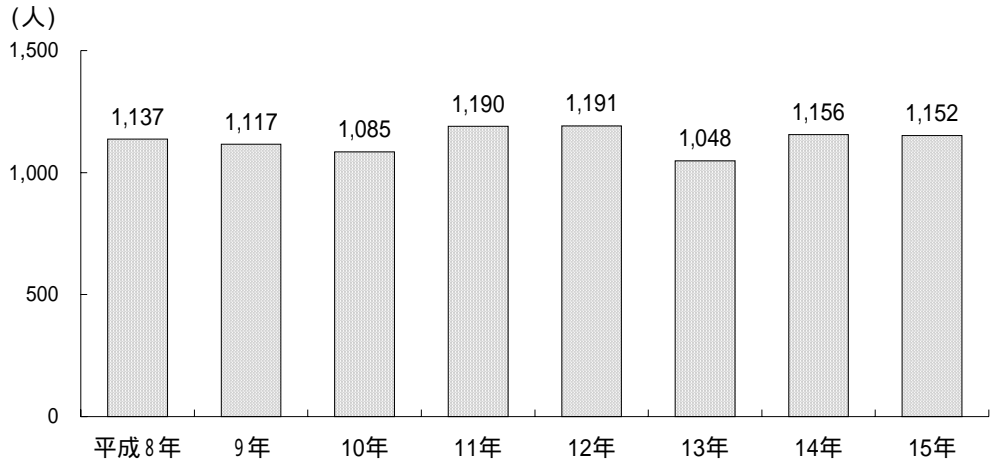
\*1 合計特殊出生率

15歳から49歳の各年齢ごとにある年の女性1人当たりの出生率を求め、その出生率を合計することで、ある年齢の概念上の1人の女性が生涯に生む子どもの数を表したものです。

\*2 人口置換水準

その年の子どもの産み方がどこまでも続いた場合、次の世代今の人口と同数の人口が入り代わり、人口が増加も減少もしない出生水準のことをいう。

図2 出生数の推移（鎌倉市）



(資料：企画課)

図3 合計特殊出生率の推移（国、県、市）

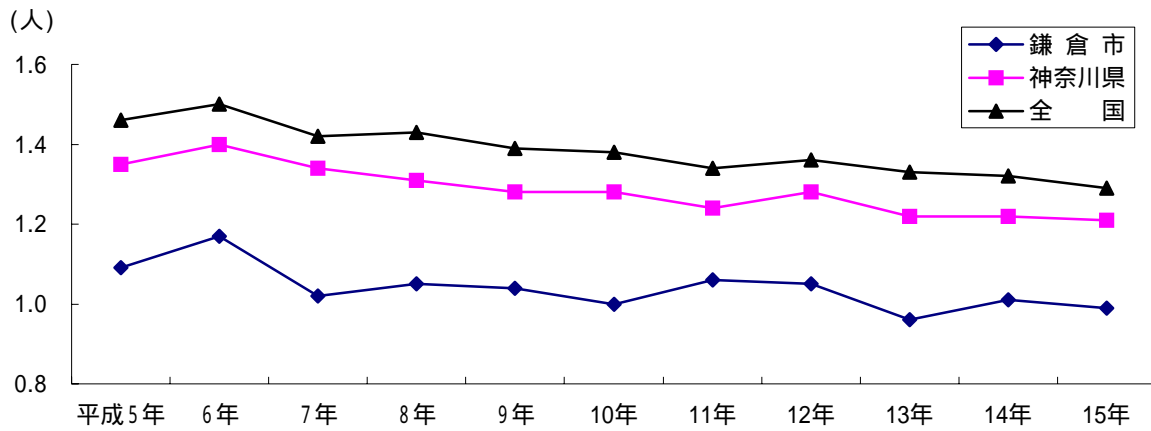


表1 合計特殊出生率の推移（国、県、市）

(単位：人)

区分	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
鎌倉市	1.09	1.17	1.02	1.05	1.04	1.00	1.06	1.05	0.96	1.01	0.99
神奈川県	1.35	1.40	1.34	1.31	1.28	1.28	1.24	1.28	1.22	1.22	1.21
全国	1.46	1.50	1.42	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29

資料：厚生省人口動態統計  
市は鎌倉市ホームページ

## 2. 子どもの数の推移

鎌倉市の0歳から14歳の子どもの数は、平成15（2003）年4月1日現在で、18,675人（人口の11.1%）、平成2（1990）年では24,991人（人口の14.3%）であり、13年間で6,316人の減少となっています。

人口の推移は、平成2（1990）年の174,307人が平成15（2003）年で、167,804人となり、13年間で6,503人の減少となっています。

しかし、平成2（1990）年と平成15（2003）年と比較した場合、65歳以上の人口は24,212人（13.9%）から38,419人（22.9%）と、14,207人の増加となっており、少子高齢化を示しています。

図4 年齢別及び割合の推移（鎌倉市）

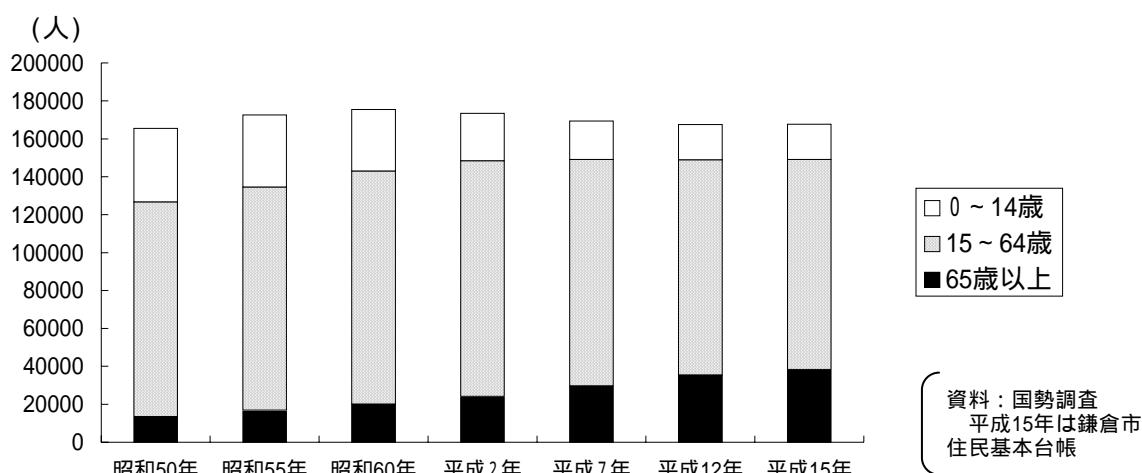


表2 年齢別及び割合の推移（鎌倉市）

（単位：人，%）

区分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成15年
人口総数	165,552	172,629	175,495	174,307	170,329	167,583	167,804
0～14歳	38,689 (23.4%)	37,929 (22.0%)	32,474 (18.5%)	24,991 (14.3%)	20,379 (12.0%)	18,590 (11.1%)	18,675 (11.1%)
15～64歳	113,296 (68.4%)	117,642 (68.1%)	122,811 (70.0%)	124,241 (71.3%)	119,254 (70.0%)	113,409 (67.7%)	110,699 (66.0%)
65歳以上	13,550 (8.2%)	16,967 (9.8%)	20,136 (11.5%)	24,212 (13.9%)	29,777 (17.5%)	35,573 (21.2%)	38,419 (22.9%)

資料：国勢調査  
平成15年は1月1日現在

### 3. 未婚者の増加

未婚率の推移を、各年代別でみると、鎌倉市の場合、男性では30歳から34歳で、女性では25歳から34歳で著しい増加傾向が示されています。

このように、男女とも晩婚化の傾向が非常に強くなっている背景には、高学歴化や就労の増加により、結婚せず就労を継続する女性が増えたこと、結婚、出産、子育てに関する心理的・肉体的負担感があること、結婚に対する個人的・社会的な意識が変化したこと等があると考えられます。

鎌倉市でも、全国や県と同様に、晩婚化にともなう未婚率の上昇が少子化の要因となっている事実を裏付けるものといえます。

図5 未婚率の推移（国、県、市の比較）

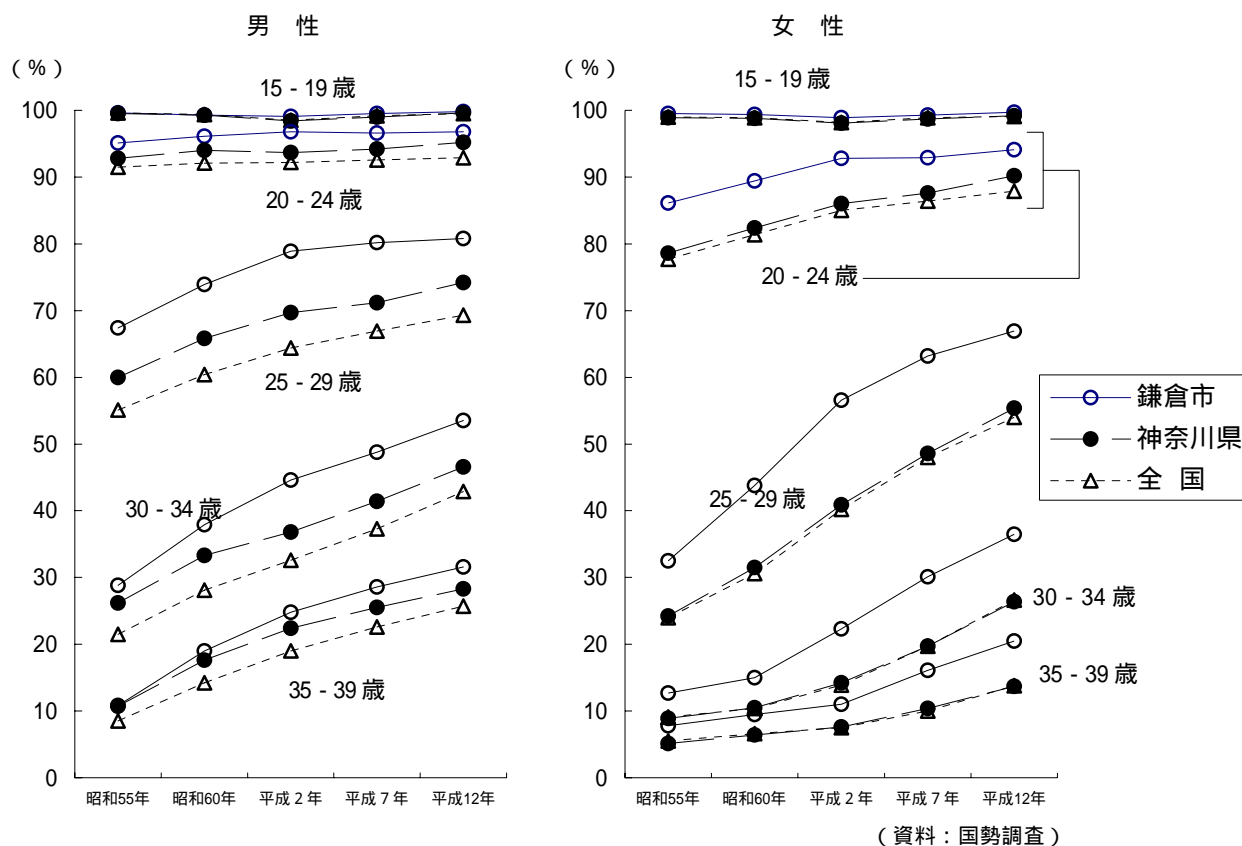


表3 未婚率の推移（国、県、市）

（単位：％）

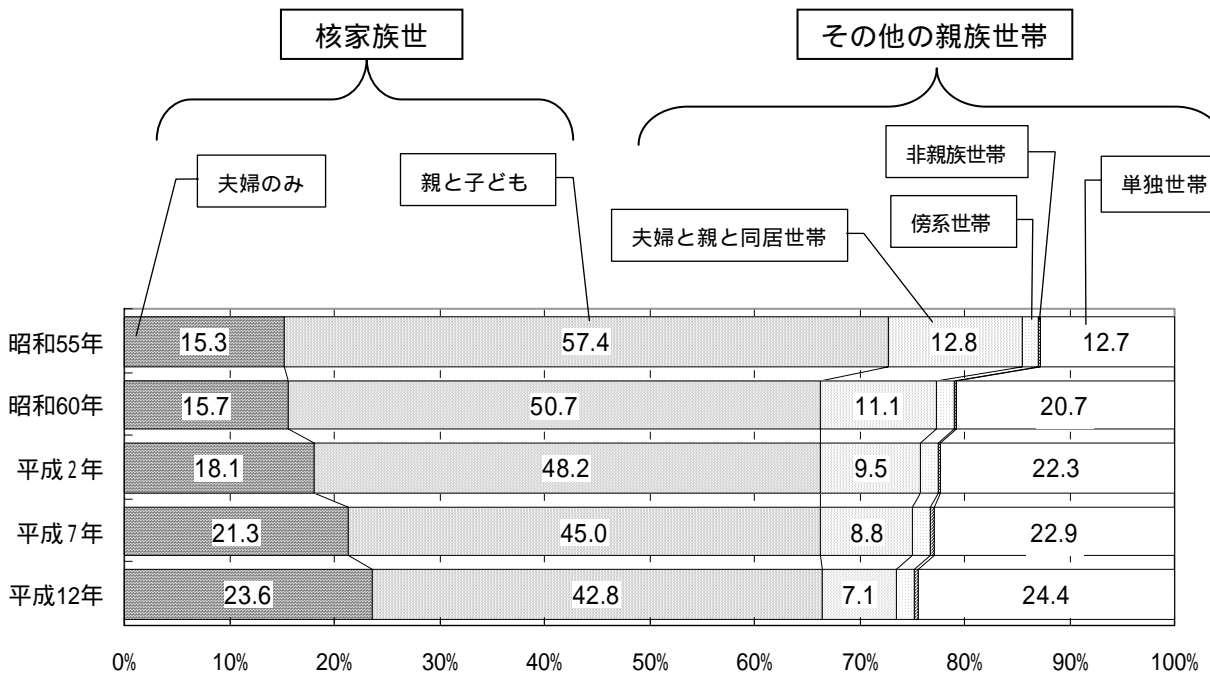
年齢	区分	（男性）					（女性）				
		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
15～19歳	鎌倉市	99.6	99.3	99.1	99.5	99.8	99.5	99.4	98.9	99.3	99.7
	神奈川県	99.5	99.3	98.4	99.0	99.6	98.9	98.8	98.1	98.7	99.2
	全国	99.6	99.4	98.5	99.2	99.5	99.0	98.9	98.2	98.9	99.1
20～24歳	鎌倉市	95.1	96.1	96.8	96.6	96.8	86.1	89.4	92.8	92.9	94.1
	神奈川県	92.8	94.0	93.7	94.2	95.2	78.6	82.4	86.0	87.6	90.2
	全国	91.5	92.1	92.2	92.6	92.9	77.7	81.4	85.0	86.4	87.9
25～29歳	鎌倉市	67.4	73.9	78.9	80.2	80.8	32.5	43.8	56.6	63.2	66.9
	神奈川県	60.0	65.8	69.7	71.2	74.2	24.2	31.5	40.9	48.6	55.4
	全国	55.1	60.4	64.4	66.9	69.3	24.0	30.6	40.2	48.0	54.0
30～34歳	鎌倉市	28.8	37.9	44.6	48.8	53.5	12.7	15.0	22.3	30.1	36.5
	神奈川県	26.2	33.3	36.8	41.4	46.6	8.9	10.5	14.2	19.7	26.4
	全国	21.5	28.1	32.6	37.3	42.9	9.1	10.4	13.9	19.7	26.6
35～39歳	鎌倉市	10.8	19.0	24.8	28.6	31.6	7.8	9.5	11.0	16.1	20.5
	神奈川県	10.7	17.6	22.4	25.5	28.3	5.1	6.4	7.6	10.4	13.7
	全国	8.5	14.2	19.0	22.6	25.7	5.5	6.6	7.5	10.0	13.8

（資料：国勢調査）

#### 4. 家族形態の変化

鎌倉市の世帯の家族類型比率をみると、単独世帯や、結婚しても子どもを持たない夫婦のみの世帯が増加しており、夫婦の出生力が低下していることがわかります。

図6 世帯の家族類型比率の推移（鎌倉市）



（資料：国勢調査）

さらに、神奈川県と同様に、鎌倉市の親族世帯のうち18歳未満の子どもがいる世帯は徐々に減少しており、平成12（2000）年には29.2%となっています。

また、18歳未満の子どもがいる世帯の家族構成をみると、核家族が85.1%と、三世代世帯の13.1%を大きく上回っており、鎌倉市でも核家族が圧倒的に多くなっています。

図7 親族世帯のうち18歳未満の子どもがいる世帯の推移（県、市）

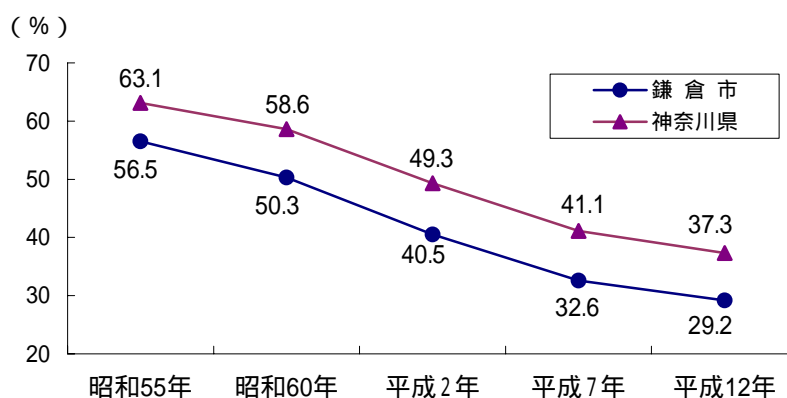
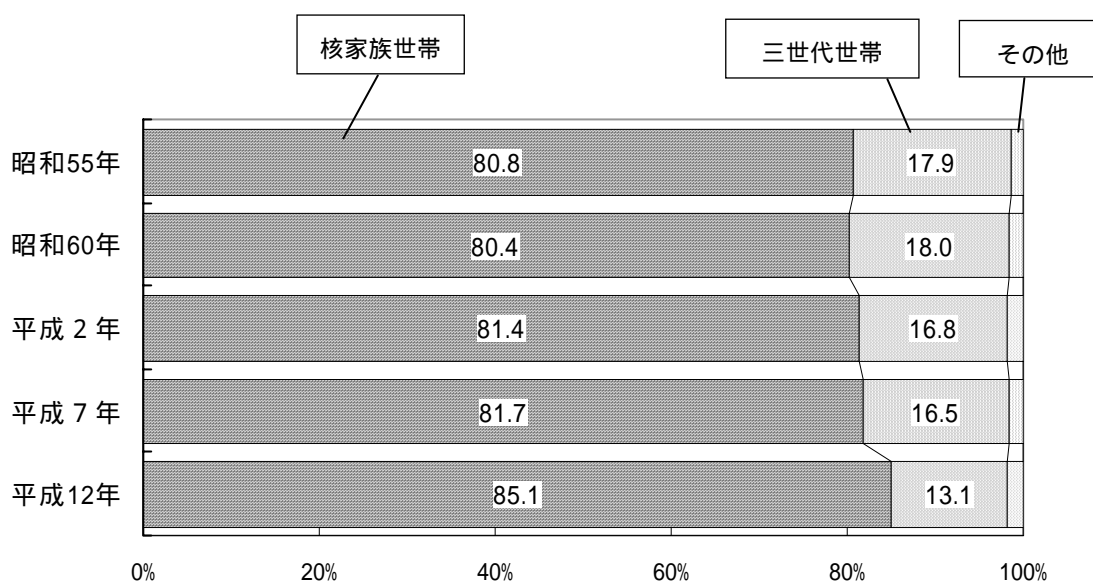


図8 18歳未満の子どもがいる世帯の家族構成比の推移（鎌倉市）



（資料：国勢調査）